



閉塞性動脈硬化症（ASO）のMRIについて

症例）60歳、男性

主訴）間欠跛行（右下腿疼痛、歩行5分程度で痛みで歩けなくなる。

安静で改善する。）膝窩、足背の拍動触知困難

MRA所見）右腎動脈は分岐下で高度狭窄を認める。（ ）右総腸骨動脈についても50%程度の中重度狭窄を認める。いずれもこれより末梢側の描出は保たれている。

はじめに ~ASOとは~

閉塞性動脈硬化症（以下ASO）はわが国でも急増する傾向にあります。その背景には高齢化に加えて、高血圧症、糖尿病、高脂血症など生活様式の欧米化に伴ういわゆる生活習慣病が大きな要因となっています。

また、ASOは今回御紹介する下肢だけでなく冠動脈、脳血管にも高率に狭心症、心筋梗塞、脳梗塞など閉塞性疾患を高率に合併することが知られており、これらによる合併症によりASO患者の生命予後は確定診断がついた患者5年生存率が70パーセントという報告もあります。

これは進行大腸ガンの5年生存率に匹敵し、さらに進行乳ガンのそれよりも不良な結果となっています。このことから全身疾患として捉えて予防、早期発見が重要となることがお分かりいただけると思います。

本疾患の主訴としては間欠跛行を主訴に受診することが多いとされています。以下にASO疑いで来院された方の症状チェック項目を挙げましたが、他にも腰痛や片側性の臀部痛など腰椎疾患として精査・加療されていた方の中にASOが含まれていたという報告も多く見受けられます。

また、動脈硬化に伴う閉塞性病変は動脈の分岐直後に生じることが多くASOの好発部位も総腸骨動脈の起始部や浅大腿動脈起始部に好発することが知られています。

臨床症状の他にも診断には下肢動脈拍動の触診が有用とされています。なかでも上腕と足関節部の血圧比（ankle brachial pressure index: ABPI）は簡便で有用な検査法であり、ABPI値が0.9以下の場合、ASOである可能性が極めて高いとされています。

閉塞性動脈硬化症にみられる主な症状

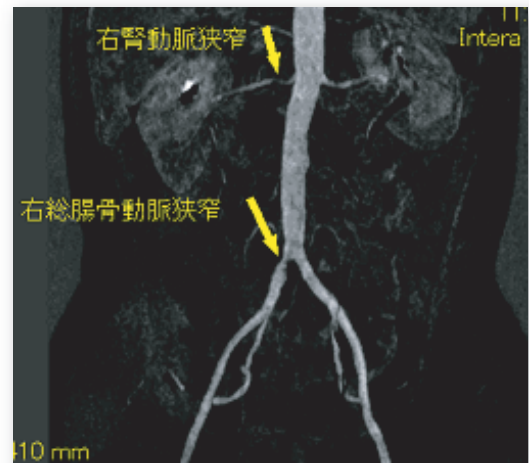
- ・歩行数分で足がだるくなり歩くのが苦痛になる。しばらく休むと回復する。
- ・朝晩に手足の冷えを強く感じる
- ・水道水が冷たくて触れない
- ・しつこい水虫がある
- ・ちょっとした傷や打ち身が治りにくい
- ・厚手の靴下が手放せない
- ・お風呂から出ると血流の悪い部分の白さが目立つ

MRIを用いた検査法

MRIを用いて血管を選択的に描出し血管造影と類似した画像を表示する方法をMR angiography(以下MRA)と呼びます。中でも造影MRAはガドリニウム造影剤を上肢の静脈から注入し、信号が上昇した血管の内腔を描出させる方法です。MRAは直接カテーテルを動脈に挿入して造影剤を流す血管造影と比較しても検査は短時間で低侵襲、被曝も無く、血流方向や速度によるアーチファクトが少ない、消化管蠕動の影響を受けないなど優れています。

MRA御依頼の際には

伝票には下肢ASO疑い、または精査希望とお書きの上、ファックスをお願いいたします。電話でのお申し込みには下肢造影MRAと御依頼ください。オペレーターが対応いたします。検査時間は検査室入室から約40分を予定しています。



顎関節MRI検査のご案内

メディカルサテライト八重洲クリニックでは、医科、歯科両方の先生向けに、顎関節MRI検査を承っております。

顎関節症とは

日本顎関節学会は、顎関節症の基本概念として、『顎関節症とは、顎関節や咀嚼筋の疼痛、関節雑音、開口障害または顎運動異常を主訴症候とする慢性疾患の総括的診断名であり、その病態には咀嚼筋障害、関節包・靭帯障害、関節円板障害、変形性関節症などが含まれる。』と定義しています。これに基づき、同じく日本顎関節学会は『顎関節症』と診断するための必要条件として以下の項目を挙げています。

顎関節や咀嚼筋等の疼痛がある。

関節雑音がある。

関節障害ないし顎運動異常がある。

上記の3つの主要症候のうち、少なくとも1つ以上有する場合。

顎関節診断におけるMRI検査の目的・位置付け

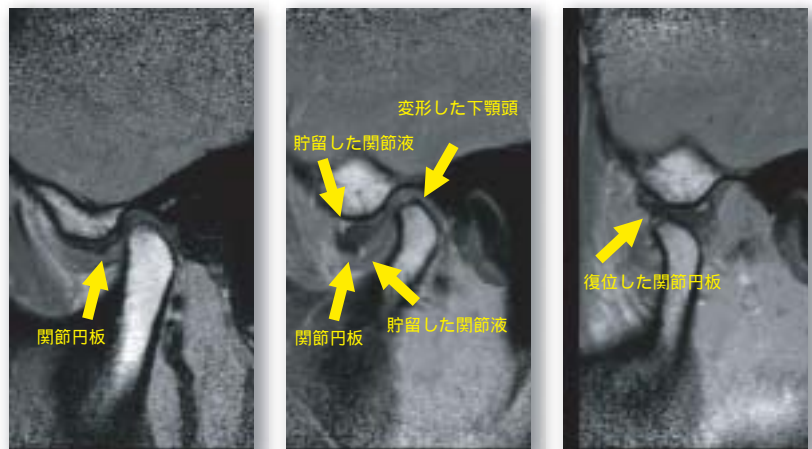
MRI検査を行うことで、関節円板の位置・形態、その周囲の組織（靭帯など）の情報を得ることができます。その結果、X線を用いた検査では取得不可能だった軟部組織の情報を、極めて詳細に知ることができます。これは顎関節症診断において非常に重要な情報であり、病症分類を行う上では、必須の情報です。（顎関節 型は関節円板の異常を主徴候としています）

MRI検査から得られる情報

MRI検査を行うことにより、主に以下の項目について詳細な情報を得ることができます。

- ・ 関節円板の位置・形態
- ・ 復位の有無
- ・ 関節液貯留の有無
- ・ 下顎頭の形態
- ・ 下顎頭の骨髄変化
- ・ 顎関節周囲組織の変化

現在はMRI検査機器性能の向上により、短時間でより高解像度に撮影することが可能になりました。よって、より正確な診断も可能となりつつあります。



当クリニックでの取り組み

顎関節のMRI画像診断は、放射線科医師の臨床的情報・知識・経験の不足のため、非常に難易度の高い部位として位置づけられておりました。当クリニックでも、これまで放射線科医師による画像診断を行っていましたが、臨床現場のニーズにお答えし、顎関節検査をよりよい体制へと昇華させるために、このたび歯科医の中村健太郎先生を顎関節専門の画像診断医としてお迎えいたしました。これにより、これまで難しかった歯科臨床的な見地からの画像診断を可能としております。

～当クリニックにおける顎関節検査の体制～

- ・ 専用の問診票により、臨床情報を詳細に得る努力をしています。
- ・ 1.5T MRIとSurface MicroCoilを用いて高解像の画像を描出しています。
- ・ 専門の画像診断医による読影を行っております。

遠隔読影を行うため、画像診断には1週間前後のお時間をいただいております。お急ぎで検査結果が必要な場合は別途ご要望ください。

顎関節検査についての詳細な内容は、医療連携課 高村までお問い合わせください。

年末年始の休診のお知らせ

初冬の候、ますます御清栄のこととお慶び申し上げます。
 本年度も当院をご利用いただき、誠にありがとうございました。
 誠に勝手ではございますが、
 ここに、年末年始の休診日をお知らせしますので、
 ご了承の程よろしくお願い申し上げます。

日	月	火	水	木	金	土
24	25	26	27	28	29	30
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13

■ : 休診
 □ : 通常診療

※ 1月7・8日は、MRI・CT装置の定期保守点検のため、
 休診とさせていただきます。何卒ご了承ください。

来年もよろしくお願い申し上げます。



貴院診療時間外TEL欄 記入のお願い

検査中患者様の状態により、ご依頼いただいた先生に緊急にご連絡を取らせていただく場合がございます。
 つきましては、依頼票の貴院欄の下に、「貴院診療時間外TEL」欄を設けておりますので、
 検査時間が先生の診療時間外である場合などは、できるだけご記入くださるようご協力お願い申し上げます。

八重洲ニュース最新版、メールでのご案内について

隔月で発行しております『八重洲ニュース』最新版のメール案内サービスを開始しております。
 最新版の八重洲ニュースが出来次第、WebにUPしたPDFファイルにリンクを貼り、メールにてご案内申し上げます。
 ご希望の方は下記にご記入いただきFAXいただくか、メールにて info@m-satellite.jp までご連絡いただければ幸いです。
 どうぞよろしくお願いいたします。

FAX送信先：03-3516-8022（この用紙をそのままFAX送信ください）

クリニック名診療科名 : _____
 ご氏名 : _____
 メールアドレス : _____

画像診断報告書・フィルム返却について

当院では検査結果（フィルム・画像診断報告書）をなるべく早く先生にお届けできるように取り組んでおります。
 しかし、休診日などでお受け取りいただけない時などがあると、個人情報ですので、ご不安な事もあるかと存じます。
 そこでこのたび、休診日のお届けを無くしたいクリニックの方を限定に、『休診日翌日の指定お届け』が出来るようになりました。
 ご希望の方は、下記に休診日をご記入いただき、当院までFAXくださいますようお願い申し上げます。
 FAX送信先：03-3516-8022（この用紙をそのままFAX送信ください）

クリニック名診療科名 : _____
 休診日 : _____
 緊急時のご連絡先 : _____

ご登録されない場合は、今まで通りお届けさせていただきます。